

令和 8 年度

病害虫発生予察特殊報(第 1 号)

令和 8 年 7 月 14 日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：クビアカツヤカミキリ（学名：*Aromia bungii*）
作物名：ウメ

1 発生経過

令和 8 年 7 月、小田原市内のウメ生産園地において、クビアカツヤカミキリ成虫を確認し、捕獲した（図 1）。県内ではこれまでにサクラで発生が確認されていたが、ウメ生産園地での確認は初めてである。国内では本県を含め 19 都府県で発生が確認されている。

2 形態および生態

成虫は体長 22～38mm、体全体は光沢のある黒色で胸部は赤い（図 1）。樹皮の隙間に産卵し、1 匹の雌が 1,000 以上の卵を産むこともある。樹木内部で蛹から羽化した成虫が 6 月から 8 月に発生し、交尾・産卵する。幼虫期間は 1～3 年で、6 月から 10 月頃までフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）の排出が続く。冬季には休眠するため、新しいフラスの排出はない。成熟幼虫は蛹になるために脱出孔を形成し、羽化した成虫が脱出孔から樹外へ脱出する（図 2）。

3 被害および寄主植物

(1) 被害

幼虫は樹幹内部を摂食し、樹木を衰弱、枯死させる。この時、うどん状のフラスが排出される（図 3）。幼虫の成長に従って、フラスが樹木の株元に大量に積もる（図 4）。

(2) 寄主植物

サクラ、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモなどのバラ科植物を主に加害する。

4 防除対策*

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第直ちに捕殺する。本種は特定外来生物に指定されているため、原則として生きたまま持ち運ぶことは禁止されている。
- (2) 周辺の樹木をよく観察し、フラスの排出、樹液の流出など、幼虫の寄生が疑われる樹がないか確認する。
- (3) 幼虫の寄生が疑われる場合、幼虫食入孔があれば針金等でフラスを掻き出し、幼虫を針金等で刺殺するか、登録薬剤の注入により防除する。
- (4) 成虫の分散及び新たな産卵防止のため、登録薬剤を散布し、樹幹部にネット（4mm 目合い以下で容易に切れないもの）を巻き付ける。設置後は定期的に見回りを実施し、成虫を発見したら捕殺する。
- (5) フラスの排出など幼虫の寄生が疑われる樹は可能な限り伐採し、伐採木や切り枝等を適切に処理することが最も効果的である。

*：登録薬剤等の詳細は令和 8 年度病害虫情報号外第 4 号

（https://www.pref.kanagawa.jp/documents/133315/202606302_1.pdf）をご確認ください。



図1 クビアカツヤカミキリ成虫
(捕殺の上撮影)



図2 成虫の脱出孔



図3 幼虫が寄生している樹に見られる
フラス



図4 株元に堆積したフラス

神奈川県農業技術センター 病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>